

# 論人公婦

昭和二十八年八月一日発行(第百一十一号) 第三十七卷 第九号 昭和二十四年七月二十一日発行(第百一十号) 第三十七卷 第八号



工場に女性の幸福を求めて  
乳癌の正しい知識  
原爆記念  
上演台本  
原爆の子

8

RKUNO

# 工場に女性の幸福を求めて

## ルポルタージュ

編集部  
 松村和夫 中村智子  
 京谷秀夫 森一久

紡績会社の『女工哀史』はすでに昔語りのようにいわれている。また女子工員たちもみずから、わたしたちは哀史時代の「女工」とは違うのだという誇りをもって働いている。

中小企業や零細企業は別としても、資本金何億というような大工場の門をいれれば、花壇には季節の花が咲き乱れ、藤棚の下ベンチでは休憩の女子工員たちが噂々と語り合っている光景に出くわすことは珍しくない。さらに完備した寄宿舎があつて、夜は勉強、洋裁、お花、お料理と好きなものが習えたと聞いては、われわれが前身(輸入公論)に記述したあの貧困にして封建的な農村に生れた子女が、募集人の旨言に乗って紡績会社へと競つて就職してゆくのも当然と思われる。

だが果してそのように、「女工哀史時代」は去つたのであろうか。わが国の紡績企業はそのように「近代化」されているのであろうか。われわれはその真実を探るべく、編集部

四名が左記の地帯を分担して探訪し、女子工員の実態を報告しようと試みた。

- 桐生(群馬県) 人絹、絹織物(中小企業)
- 前橋 製糸(G製糸、M製糸など)
- 福井 人絹(中小企業、零細企業)
- 富山 紡績(K紡績など)
- 谷村町(山梨県) 絹織物(零細企業)
- 岡谷市、下諏訪(長野県) 製糸(K製糸、その他零細企業)
- 京都 西陣織(K織物その他零細企業)
- 泉大津(大阪) 毛織物(N羊毛、その他零細企業)
- 岸和田(和歌山) 紡績麻(T産業、その他零細企業)

大きな資本とつらい労働  
 ネズミのようにかけまわる私たち  
 ひたいの汗をぬぐうひまもなく  
 つぎつぎと運ばれてゆく白い綿  
 「人間よりも製品だ」

かたくとざされた回転窓  
 灰色のぼこでうずもれている  
 冷たい風がほしい！  
 食事時間がまちどおしい！  
 その時間すらも糸をつながなければならぬ  
 私たち  
 昨日は千代さんが休んだ  
 今日はずさんがたおれた  
(詩集『機械のなかの青春』より)

これは紡績のうちでも資本金七億の大企業K紡績の工場に働く人々が、その労働の苛酷さを訴えた詩である。外観は目をみはらせるような近代的スタイルの工場の内部は、耳を襲う騒音とともに最新式の機械が回転している。

騒音と埃のような綿ほ、この中で灰色の原綿から純白の綿布がつくられる紡績工場、耳を襲うばかりに唸る機械の間を、白い頭巾の女子工員たちはネズミのようにかけまわっている。このように「近代化」のために「近代化」は、不景気で暴落する綿糸や綿布の値段を支えるために行われた「操短」によって、女子工員の労働は逆に増大していることである。たとえばK紡績では昨年三月以降の操短で、人員を二一〇名から一二〇〇名に減らしたのであったが、現在では機械はフルに動いており、精紡一人当りの持台数は、





は違ふのだ。この語りをも  
中小企業や零細企業は別として、資本金  
何億というような大工場の門を入れば、花壇  
には季節の花が咲き乱れ、藤棚の下のベンチ  
では休憩の女子工員たちが嬉々と語り合つて  
いる光景に出くわすことは珍しくない。さら  
に完備した寄宿舎があつて、夜は勉強、洋裁  
お花、お料理と好きなものが習えたと聞いて  
は、われわれが前号(七月号)に記述したあの  
貧困にして封建的な農村に生れた子女が、募  
集人の甘言に乗つて紡績会社へと競つて就職  
してゆくのも当然と思われる。

だが果してそのように、「女工哀史時代」  
は去つたのであろうか。わが国の紡績企業は  
そのように「近代化」されているのであろう  
か。この語りをもとに、編纂部  
編纂部は次から次へ切れて、向うの方  
の糸をつないでいる間にもうこちらがきれて  
白い綿毛がどんどん巻きついてしまふ。  
一人当りの織機持台数をみても、K紡績で  
は六〇台に及んでいる。糸に仕上げの撚りを  
かける「精紡」は、関係湿度六〇%の工場で



K製糸S工場での製糸まき

福井 人絹(中小企業、零細企業)  
富山 紡績(K紡績など)  
谷村町(山形県) 絹織物(零細企業)  
岡谷市、下諏訪(長野県) 製糸(K製糸、  
その他零細企業)  
京都 西陣織(K織物その他零細企業)  
泉大津(大阪) 毛織物(N羊毛、その他零  
細企業)  
岸和田(和歌山) 紡績麻(T産業、その他零  
細企業)

大きな資本とつらい労働  
ネズミのようにかきまわらる私たち  
ひたひたの汗をぬぐうひまもなく  
つぎつぎと運ばれてゆく白い綿  
「人間よりも製品だ」  
このように「女工のたぐひ」に共通な  
言葉は、そこで働く人間にとっては重苦しく  
疲労を倍加する牢獄ともいえるであろう。  
N羊毛のような紡毛、毛織の工場では、「一  
日六里を歩く」といわれる精紡ミュールとい  
う機械を受持つている女子工員が最も重労働  
である。毛糸の最後の撚りをつけるこの機械  
の動きに合わせて往きつ戻りつしながら、切  
れた糸を手早くつなぐ仕事は慣れないと手が  
挟まれたり、足を機械に触れたりして怪我が  
多い。

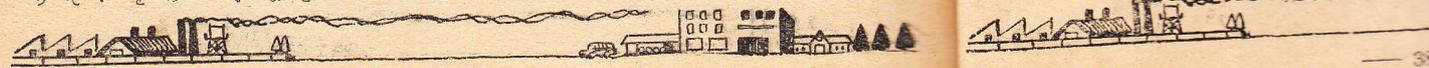
「職制」の眼

しかもこのような労働はこの工場でも、  
「係員」とか「職制」とか呼ばれる男の監督  
のもとに行われている。N羊毛では係員に叱  
かられて乙女心を傷め、辞めて行った人があ  
るし、K紡績K工場では糸切れを示す赤いラ  
ンプが職制への目じるしになっていてと嘆い  
ていた。それにこの監督の人もやはり組合員  
なので、組合の役員には発言力の強いこうい  
う人が就任している。組合員が組合の委員の  
監視の下で働くような職場は紡績だけではな  
いけれども、このような労働組合に健全な発  
展が望み難いのは当然であろう。紡績関係の  
組合には御用組合が多いといわれ、それを統  
轄する全織維関係労働組合同盟(全織)に対  
して批判の声がきかれるのも、一つにはこう

昨日は千代さんが休んだ  
今日はかずさんがたおれた  
(野妻「機織のなすの書き」より)  
これは紡績のうちでも資本金七億の大企業  
K紡績の工場に働く人々が、その労働の苛酷  
さを訴えた詩である。外観は目をみはらせる  
ような近代的スタイルの工場の内部は、耳を  
襲う騒音とともに最新式の機械が回転してい  
る。  
騒音と埃のような綿ほ、この中で灰色の原綿  
から純白の綿布がつくられる紡績工場、耳を  
襲するばかりに唸る機械の間を、白い頭巾の  
女子工員たちはネズミのようにかきまわつて

いうところに原因があるのではなからうか。  
紡績関係企業の特質として最も重要なこと  
は、不景気で暴落する綿糸や綿布の値段を支  
えるために行われた「操短」によって、女子  
工員の労働は逆に増大していることである。  
たとえばK紡績では昨年三月以降の操短で、  
人員を二一〇〇名から一二〇〇名に減らした  
のであったが、現在では機械はフルに動いて  
おり、精紡一人当りの持台数は、  
昭和二年 一・三台  
二四年 二台  
二六年(朝鮮戦争時) 三・五〜四台  
二七年(四割操短後) 四〜五台  
二八年現在 六台

と、どんどんふえているのである。また、全  
国平均の女子工員一人当り織機台数でみて  
も、昭和二年の二・四台から二五年の三・  
四台と増大の一途をたどっている。  
経営者は機械の性能と原料の質の向上とを  
理由に、この持台数の増加を労働強化ではな  
いという。しかしわれわれの会ってきた女子  
工員たちは、ほとんど「近ごろはつらくなっ  
た」と訴えていた。これを疑うものは、あの  
綿ほこのもうもうたる工場をのぞき、動めを  
終えて寄宿舎へ帰つても暫くは口もきけない  
ほど疲労した彼女たちの顔を見るがよい。そ  
ればかりかこのような過重労働が、発育盛り



の彼女らの順調な成長を阻んでいる例が、統計的な数字にはなっていないけれども、「音の低い女子工員」として諸所で問題となっているのである。「女工哀史」が昔話してはなくなっていくことを、彼女らは本能的に予感しているのである。

資本の力にものをいわせて、老大な利潤を挙げていく大企業に「工場」であり、屋根裏が「寄宿舎」であるような中小乃至零細企業はどうであろうか。

### 小さいほど苦しい

「基準法なんか守ってたら商売になりますか」といふのが織維関係の中小企業経営者のいい分である。大資本の力に、彼らは長い労働時間、安価な設備で対抗するほかはないといふ。

このような「不当労働行為」を摘発するために、各地の労働基準局の監督官は、深夜臨時臨検を行うことがある。はるかにみえる家工場に灯がともっている、深夜操業を行っているにちがいない、その家に近づいていざ家内に踏み込むと、番犬の吠え声とともに機械が止り電燈は消え、家の中は森閑として猫の子一匹いない、機械に手を触れるとまだ熱い、たっただいまままで動いていたことは確かだ、家の中を探索すると、押入の中、天井裏

から女子工員が何人も泣きながら出てきた、主人は早くも感づいて逃亡した後。

こういう経験を大抵の監督官はもっている。これは多くの場合、別掲のような投書にもとづいて行っているのであるが、首尾よく現場をおさえ、悪質なものとして出頭するよう通達に行った監督官が、フトふり返って二階を見上げると、女子工員たちがハンケチを振って感謝していたという涙ぐましい物語が、山梨県Y町にある。もともと長野県O市では労働基準署の署長に社宅を提供して大目にみてもらっていた例もあるのであるが……

### まゆを繰る婦人たち

群馬県前橋市などには、玉糸座繰といつて、一つの繭に二匹の蚕が入っている繭から手動機械に坐つて糸をくるのがある。この特殊な繭は供給量も少いので玉糸座繰は殆んどが中小企業である。どこでも繰糸工場へ一歩踏み入ると繭を煮ているにおいが、慣れない人の胸をむかつかせる。手拭を首にかけた婦人は、ものもいわずに熱湯(四〇度)の中で手を動かしている、その手は死んだ魚の腹のように白くふやけている。

顔がねもせずそだてたまゆを  
むすめ涙で糸にする

玉糸でなくても、普通の繭を、大工場のような立繰式の力動機でなく、足で踏んで枠を

### 女子工員の投書

山梨県の某労働基準監督署に來た女子工員の投書を原文のまま紹介しよう。

労働局の皆さん

私達は西桂町の女工として働いております。かんたくしよのしはいはますこしげんじゆうにしたい。朝は五時三十分たただきおこされ、夜は十一時までとゆうようなわけです。こじんでは会社とはちがつて病人がでてみてもくれられません。

……基準局で廻つて来た時に早くとめます。けれども次の朝は一時間半早く起きて仕事にかけます。私達の働いている家の主人は理解がなくちよつとの外出も許されません。この手紙を書いて出すのもやつとの思いです。私達の気持ちもお察し下さいませ。基準局の力に依り、全寮いっせいに月一度位の公休日を作ることができないでしょうか。又労働時間というものをきめていただけではないでしょうか。どうか宜しく願ひ致します。

次に近所の人が監督署にあてた抗議の手紙の一部を、引用してみよう。

……全然不規則な生活の上には朝は必ず五時半頃から夜は十時近く迄徹底的に女工さん達を使っているのです。同じ年頃の娘がこんなに酷使されているのを見るに耐へられません。勿論仕事の最中食事休けいなんて全然ありません。みんな交代でまづいもの(♀)たべています。天気の良い日など日中洗濯をしないと中々出来ません。仕事の終了後十一時近くまである風呂に入り、それから洗い物をするのです……映画も新聞もみることの出来ない社会見聞に乏しい気の毒な私の友達のためにも、ぜひぜひ役所の皆様は御協力していただいて彼女達を幸福にさせて下さい。

……基準局で廻つて来た時に早くとめます。けれども次の朝は一時間半早く起きて仕事にかけます。私達の働いている家の主人は理解がなくちよつとの外出も許されません。この手紙を書いて出すのもやつとの思いです。私達の気持ちもお察し下さいませ。基準局の力に依り、全寮いっせいに月一度位の公休日を作ることができないでしょうか。又労働時間というものをきめていただけではないでしょうか。どうか宜しく願ひ致します。



分である。十時以上の労働時間、安価な設備で対抗するほどはないとい

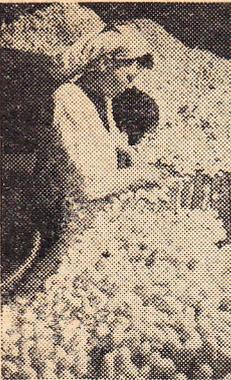
このような「不当労働行為」を摘発するた  
めに、各地の労働基準局の監督官は、深夜臨  
時臨検を行うことがある。はるかにみえる家  
工場に灯がともっている、深夜操業を行って  
いるにちがいない、その家に近づいていざ家  
内に踏み込むと、番犬の吠え声とともに機械  
が止り電燈は消え、家の中は森閑として猫の  
子一匹いない、機械に手を触れるとまだ熱  
い、たっただいまままで動いていたことは確か  
だ、家の中を捜索すると、押入の中、天井裏

これらの零細企業では商を買い集めて下請  
に出す「出釜業者」から商を支給されて糸を  
とる。こういうのを「出釜」というのである  
が、朝七時ころから夕五時頃まで坐りつきり  
で、二杯（八杯）位糸がとれる。その賃一六  
〇円、薪代を差引いて一人一月三千円になれ  
ばよい方である。繭のない暇なときは日傭に  
でる。

### 錦織子はこうして生れる

日曜日には仕事を休みましよう  
夜の事は休みましよう  
年に一度健康診断をうけましよう

「西陣機業労働基準法推進本部」のこのスロ  
ーガンにも反応を示さない京都「西陣」  
九五%は五台以下の零細企業である——は、  
千本通りを境として、「東機」と「西機」に分  
たれる。東機は錦欄、唐織、錦などを産して



繭を採別する女子工員。玉繭  
とくす繭を除く

手動機械に坐って糸をくるのがある。この時  
刻な繭は供給量も少ないので玉糸機械は殆んど  
が中小企業である。どこでも繰糸工場へ一歩  
踏み入ると繭を煮ているにおいが、慣れない  
人の胸をむかつかせる。手拭を首にかけた婦  
人は、ものもいわずに熱湯（四〇度）の中で  
手を動かしている、その手は死んだ魚の腹の  
ように白くふやけている。

親がねもせずぞだてたまゆを  
むすめ涙で糸にする  
玉糸でなくても、普通の繭を、大工場によ  
うな立派式の力動機でなく、足で踏んで棒を

機が多い。賃機を十数軒かかえた親分は、糸  
を買って賃機に織らせ、それを室町筋の仲買  
に売ることによって太ってゆく。それを地盤  
に代議士に当選したのがT氏である。手織の  
西陣織には四〇数色に及ぶ芸術品があるが、  
西陣織はその柄の多様さのためもあって回転  
率が悪く、生産費の二、三倍の値段で消費者  
の手に渡る状態である。その間のマーヅンは  
前記の親分や仲買の搾取するところなのだ。  
申し合わせたように屋根の低い中二階建の  
長屋のうちの軒、戸を開ければ土間に二台  
の力織機で主人と乳呑児を背負った主婦が、  
銘仙を織っている。その隣の家では主人は郵  
便局勤め、妻は、天井をぶちぬき土地を掘り  
上げて据えつけたジャガード型手織機で帯を  
賃織していた。一本七〇円、一二時間位働い  
てやっと七本程度。雨もりしそうな家の騒音  
の中でやっとこれだけききとった。辺りは便  
所の悪臭ただよ、ドブのような下水が流  
れ、よそ人には迷路のような「観光都市」京  
都の一角である。

### 「人絹王国」の小工場

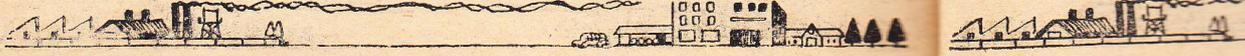
福井県下の人絹工場の半数は織機一〇台以

（一）全世帯に洗濯機が普及するにともなう、洗濯機は  
十時近く洗濯機に人工さん達を使っているのです。同  
じ手拭の娘がこんなに酷使されているのを見るに耐へら  
れません。勿論仕事の最中食事休けないで全然ありま  
せん。みんな交代でまうもの（？）たべています。天  
気の良い日など日中洗濯をしたいと思っても中々出来ま  
せん。仕事の終了後十一時近くなつてゐる風呂に入  
り、それから洗う物をするのです……映画も新聞もみる  
ことの出来ない社会見聞に乏しい気の毒な私の友達のだ  
めにも、ぜひぜひ役所の皆様に御協力していただいて彼  
女達を幸福にしてあげて下さい。

少し大きな工場になると、紋織子を織って  
いるが、「紋織りすれば平織りなど遊んでる  
ようなもの」といわれるむずかしいこの機械  
を、一人で四く五台も受持っている。熟練を  
要するので、殆ど三〇才以上の婦人たちが、  
青白い頬に手拭をかむり眼を血走らせている  
様は、近寄って話しかけることがためらわれ  
る程の鬼気迫るといった光景である。その機  
械の間を三才位の子供が危なっかしくかけま  
わっていた。

### ピラミッド型の「毛織王国」

泉大津駅を降りると、「泉大津・毛織王国」  
という大きな赤いネオンが銀行の屋根に昂然  
と輝いている。この「王国」は、約三〇〇戸  
の毛織業のうち半数が三人以下の零細企業で  
構成される王国である。原毛から毛織までの  
一貫作業を行っているのは唯一の大企業N羊  
毛のみで、他は原毛から毛糸まで、或は毛糸



った。

まず第一に、早番は朝三時半に起床、後番は夜一〇時半までという早朝、深夜の労働は、寮あればこそその労働強化なのである。朝はラジオの音楽と共に起き、分担の場所を掃除する。紡績工場の廊下の光り工合と、女子工員の腕の運動回数とが比例するわけなのだ。掃除が済むとゾロゾロと食堂へ行き、麦の入った盛りきりの御飯に、キャベツの味噌汁、分厚いたくあんだけの毎朝きまった朝食は「疲れている時は咽喉通らない」と彼女らの食事に対する不満は大きい。風呂場も設備は立派だが、カランがなく中の湯を汲み出して使うので、おそく行くとアカくさい湯が膝までしなくなるといった。

大阪府のT産業は三〇〇名を収容する寮があるが、食堂まで二町もある。早番の人は朝飯など外米の麦飯ではのども通らない。「明日の朝T産業は麦飯だ」と判ると、近所の駄菓子屋ではパンを平素の三倍仕入れてもすぐ売りきれるといふ。

みそ汁の中にネズミがとびこんで死んでいたのを見て、みな朝飯を食べなかつたことがあった。大阪府衛生局の人が視察に来たときは、その前夜寮生を集めて、あのことは絶対しゃべらぬようにと因果を含められたので、ついにいえなかつたとある女子工員はくやし



### 「職場防衛隊」

これは戦争中のことではない、現在、れつととした組合のある大会社でのことである。昭和五年のレッド・パージを契機として、「アカの暴力」という宣伝がゆきまわり、その波にのつて紡績その他二三の会社では、組合が協力して「われらの職場を守るために」と、戦争中の隣組消防隊まがいの「職場防衛隊」が誕生した。紡績関係ではT人絹、N紡績の消防隊が有名であるが全国的に最も規模雄大なのは、T薬品のそれであろう。一週間に一度、「組合の自発的盛上り」で演習が行われ

そうに語っていた。

首陽が多い。お茶でもかきこまなければ咽喉を通らぬ麦飯と、あの口から飛び込む綿ぼこが原因だろうか。結核にかかりやすい件もそろっている。N羊毛、T産業でも毎年一〇名以上がこの病で帰郷してゆくという。それに脚氣が多い、ある人は「早く、働けないくらいひどくなればよいのに」と自業的につぶやいていた。

### ゆくにゆかれぬ工場学園

工場学園も、疲れきつた女子工員たちは中行かれないのが実情である。N紡績で先生をしている人は「強制されて気の弱い子だけ来る」と語った。Nでは各工場で学園利用率の競争をしているので、強制的に引っぱり出している。先生は寮監を兼任しているので、

この防衛隊の隊長には組合の委員長(目下「アメリカの労働事情調査のため」渡米中とのこと)が就任している。「赤から脅迫状がきた」とかでこれが結成されてから二年になるが、その六尺棒の腕を見ればこそ事件しなかつたようだ。いや「防衛隊があつたればこそ事件が発生しなかつた」のだそうである。「そういう事件が万おきでも、保安隊にでもまかせておけば……」という記者は、「われわれの生活の拠り所である職場が荒されたのを手をこまわいてみてよいのですか」と反問された。演習による傷害には、社業以上の保障を会社は約束している由である。

強制力は絶対だ。怠ける子は多少の強制をしなくても勉強させた方が将来のためになるという論も成り立つのだが、「カクカクは教えてはならぬ、あの本は読んでほならぬ」と会社側の露骨な指令に、先生は良心の悩みを訴えていた。なお先生は「会社側の人」だから、自治会の監視、スパイをするようにと会社からいわれ、同僚同士もお互いに注意し合つて、心を許せない。

工場学校があるのだから、他へ洋裁など習いにいってはいけないことになっている。わざわざ他へ行きたがるのは「へんな人間」なのだ。

寮の敷地は工場とは別にあつてもよさそうなものなのに、必ず工場と同じ囲いの中にあるのは、外部との接触を極端に嫌つた昔の名

しかししい農村を体験してきた彼女たちあることで名高い。一週三日ずつ交代の昼間

福井の中企業K工場は高等学校と託児所が

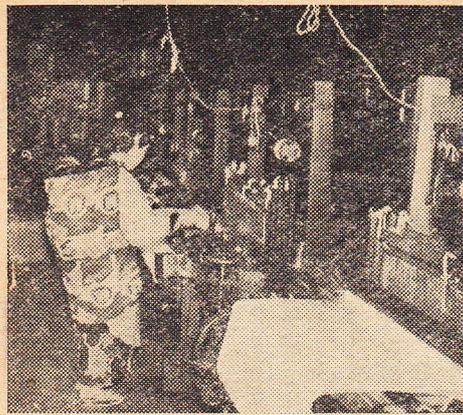
託児所は工場内の一角の、機械の騒音のひびく、西日しか入らない部屋で、三〇人ほどの幼児と赤ん坊がいるが、保母は二人。「保母は有資格者でなければいけない、託児所の設備はかくかくでなければならぬ」と県で注意をすれば、「それでは閉鎖する」と会社側はいうし、働くお母さんたちは「どんなでもよいかから置いてくれ」と頼む。すぐ近くのM

大阪府のT産業は三〇〇〇名に達する。あるが、食堂まで二町もある。早番の人は朝飯など外米の麦飯ではのども通らない。一明日の朝T産業は麦飯だ」と判ると、近所の駄菓子屋ではパンを平素の三倍仕入れてもすぐ売りきれるといふ。

みそ汁の中にネズミがとびこんで死んでいたので、みな朝飯を食べなかったことがあった。大阪府衛生局の人が視察に来たときは、その前夜寮生を集めて、あのことは絶対しゃべらぬようにと因果を含められたので、ついにいえなかつたとある女子工員はくやし

い。工場の中で、結婚年齢に達して再び「悲哀」の農村に帰っていかねばならないことを考えると、福利施設が含む問題は大きいのはななるうか。

しかし貧しい農村を体験してきた彼女たちには、お昼と晩に煮物や魚が食べられ、明るい電燈が輝いている寮は「目を見はる」ものかもしれない。だがたとえ主観的には農村より遙かに上等だとしても、それが客観的には



子を背に人組を織る(福井)

福井の中企業K工場は高等学校と託児所があることで名高い。一週三日ずつ交代の昼間定時制高校で、後の三日は工場で働く。六〇〇人の生徒は必ずしもK工場で働かなくてもよいが、その代り卒業後K工場にはいれることも決まっていない。食費二二〇〇円出してい

### 託児所のある場合

工場学園も、疲れきった女子工員たちは中行かれないのが実情である。N紡績で先生をしている人は「強制されて気の弱い子だけ来る」と語った。Nでは各工場で学園利用率の競争をしているので、強制的に引っぱり出している。先生は寮監を兼任しているので、

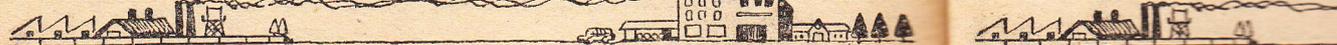
### ゆくにゆかれぬ工場学園

工場学園も、疲れきった女子工員たちは中行かれないのが実情である。N紡績で先生をしている人は「強制されて気の弱い子だけ来る」と語った。Nでは各工場で学園利用率の競争をしているので、強制的に引っぱり出している。先生は寮監を兼任しているので、

工場でお腹が空いてたまらないとのこと、月謝四〇〇円出すと手元に残るのは一番多い人で五〇〇円、普通二〇〇〇三〇〇円程度だ。ノートを買ったたり、パンを食べたりするので家から仕送りしてもらっている人もある。月に千円も出し、定時制だから四年も行かせるのなら、普通高校へやればよかつたと不平をいっている親もあるようだ。生徒は週に三日工場へ出るが組合には入れない。学校は赤字だから「オレたちの賃金が生徒の方へ廻っている」と組合員は不平をいう。学生だから卒業と同時に退職金なしで解雇できる。「一種の社会事業です」と称する学校は、月二〇〇円

### 木魚のひびく寄宿舎

工場で宗教教育を行っているところがあちこちにあった。群馬県のG工場はキリスト教で、従業員全部は毎朝、朝礼をして、教育厚生課長の講話と讚美歌合唱がある。そのせいか、従業員たちはよくミッション・スクールの生徒にみられるおしとやかで、行儀のよい風を装っているような感じだ。



社側の提案に、組合幹部はころりと喜んで、退職金にいくらと規定も作らない中に連合を脱退してしまつた。またたく間に賃下げ、長時間残業、残業手当の不払いなど強行されたが、骨抜きになつた組合はただ泣寝入りするばかりだつた。数回に及ぶ大巾な賃下げに堪えかねた組合委員は「これ以上の賃下げは死ね」といふようなものだ、賃下げより過剰人員の解雇をしてほしい」と申出た。会社は「解雇すれば一五万円の金がいるからしない、しかし五割は過剰人員だから解雇ほしな人が人員は減らす」と奇妙な言明をして、次のような方法をとつた。それは、首切りリストを作つて、職場運転手にいい含め、機械が故障した場合も修理させず、また材料を渡さなかつたりして、いじめ出しにかかつたのである。休業の場合の六割支給も支払わず、解雇手当も出さない。

託児所閉鎖と共にお母さんたち三〇人を解雇したM工場、寮廃止をして若い女子工員を全部追い出したN工場、人絹不況の福井では賃下げと首切りは日常茶飯事と化していた。

### それでも団結は強い

組合がなければ全く一方的に首を切られ、組合があつても弱体で結局は会社のいいなりに泣寝入りすることが多い中小企業の場合に、F織物(福井)の闘争は注目し得る。



### 募集した女子工員の話

秋田県平鹿郡のN中学は本年三月の卒業生一三〇名中、三〇余名が「紡績女工」として、愛知県方面へ流れ出している。工場から職安、職安から学校へ通つて募集される。婦人会の某さんは、中学の先生が年一回卒業生の就職先を見廻りに出張するけれども、あれは会社と呼ばれて、御馳走されて、うまいことをいわれているのではないかと、いつていた。募集した人に会つて聞くところによると、その人は、自分の母の義弟の名古屋近辺で工場をやつてゐる人につ

れられて、近在の同じ年頃の娘三人と一の宮に近い紡績工場に入つたのは二年半だつた。朝は七時半から、夜七時過ぎまで働き通して月一五〇〇円。これでは寄宿舎の食事の足りない分をうめることさえできない。衣服はしかし支給され、三年間に二度ばかり郷里へ帰つた。工場へ入つて一年目に一箱ばかり郷里へ帰つた。一年半目にもう一人が結婚で、目下入院中とのこと。募集してみたものの、両親、兄弟七人で、七反歩(水田単作)ではやつてゆけないし、やはり工場の方がいいと、鈍い表情でボツンといつた。

### 募集人に連れられて

F会社は昨年夏、人絹不況のあたりをくつて倒産した。それまで組合もなかつたこの労働者は、今まで働いた分の賃金さえももらえず、明日から路頭に迷ふ事態に直面して、悲壮な決意の下に組合を結成し、未払賃金の支払いと解雇手当を要求した。賃金債権者である労働者や地元の農民債権者を除外して、商社側債権者の手に全てのものが押入れられる。一步手前で、「われわれも債権者だ」と組合員は果敢の指示に従つて、織機の一部の仮差押処分を行った。社長一家の「お前らは会社のおかげで喰つてきたのに恩を仇で返す気か」という脅しや泣き落としにもめげず、堂々と結束して、働く者の権利を主張し、ついに未払賃金と解雇手当を、完全にかち得たのであつた。団結して闘えば勝つのだと、工員、女子工員たちは、自らの力に驚き、地元の人人も感心している。

紡績工場では今日でも職安を通さずに、募集人に連れてこられた女子工員が大半を占めている。農村の労働力過剰で、大紡績の入社試験は三人に一人というように狭き門となつて年ごろの娘のいる家へ行き、よいことを並べたてて工場へ紹介する手間は不要のように思えるが、実はそうでない。

募集人はその後毎月、月給日になると現われて、「無駄使いするんじゃないよ、家へ送んな」と給料を持って行つたり、親元からの伝言を伝えたりして、農村と工場をしっかりと結ぶ、ベルトの役割を果しているからだ。昨年の操短で人員整理の時には「今止めれば〇万円ももらえる、年頃だから、そろそろ嫁入りの支度でもしたらどうだね」と親にもちかけて「会社が困つてなざるんなら」「お世話

募集人の混合で女子工員の世論調査をしたところ「募集人制度を止めてほしい」という意見は七割を占めていた。その理由は、

「このように現況と女工を結ぶベルトの長さ、長いほど良い。募集人は工場の近辺から集めず、わざわざ遠く地果へ集めに行く。

「ガチャ百」「ガチャ千」と景気の下降の

た場合も、いじめ出しにかかったの... 休業の場合の六割支給も支払わず、雇手当も出さない。

託児所閉鎖と共にお母さんたち三〇人を解雇したM工場、寮廃止をして若い女子工員を全部追い出したN工場、人絹不況の福井では賃下げと首切りは日常茶飯事と化していた。

それでも団結は強い、組合がなければ全く一方的に首を切られ、組合があっても弱体で結局は会社のいいなりに泣き入りすることが多い中小企業の場合

M新種の組合で女子工員の世論調査をしたところ「募集人制度を止めてほしい」という声は七割を占めていた。その理由は、



町工場では手で縦糸をまく

は果敢の指示に従って、機械の一部の仮置押込分を行った。社長一家の「お前らは会社のおかげで喰ってきたのに恩を仇で返す気か」という脅しや泣き落としにもめげず、堂々と結束して、働く者の権利を主張し、ついに未払賃金と解雇手当を、完全にかち得たのであった。閉結して闘えば勝つのだと、工員、女子工員たちは、自らの力に驚き、地元の人

農村よりはまし

このように親許と女工を結ぶベルトの長さは、長いほど良い。募集人は工場の近辺から集めず、わざわざ遠く他県へ集めに行く。大阪のN羊毛、T産業には、九州の鹿児島県から来るる来ている女子工員が多く、群馬県M製糸は県内からは採用しない方針で、長野、新潟出身者が多い。両親がそろって

「傾向が良い」と募集人に見込まれた以外の娘たちは、労働条件の悪い中小零細企業へ流れていく。際限なく下には下がある零細企業の条件の劣悪さが、ほんの一寸良い方を「〇〇よりもまし」と現状を肯定させ、大紡績を相対的「貴族」にする。一〇時間労働で月二千円の方は三千円の方を羨しがり、ストをするものを「贅沢だ」といわせ、雨もりする寮に居る者は、大紡績に憧れる。最低生活を保障されなければならぬ生活権の問題がさらされて、「ましじゃないか」と下へ下へと足をひっぱっている。工場へ来て二三年たった女子工員たちが異日同音に「農村へは帰りたい」と言う。日本の貧乏の最低線にテンと

「ガチャ万」から「自転車経営」へ  
「織機一〇台もてば妾をおき、一〇〇台あれば自家用車を買える」  
とうそぶいていた泉州（大阪府南方一帯）の綿布の中小企業群も、やがて到来した中だるみとともに、「ガチャ万」が「ガチャ千」、「ガチャ百」、「ガチャ損」と景気の下降の途をたどり、いまでは「自転車経営」（とまったら倒れる）をつづけ、零細企業は「みみず経営」（頭をきられても、シッポで生きてゆく）で露命をつないでいる。

このような紡績の場合、大体の傾向として、春四月頃から綿糸相場は上昇をはじめ、八月頃を頂点として秋にかけて暴落するといふ状態が二三年ほど続いている（今年も今のところ同じ傾向を辿っている）。その相場を動かしているのは大阪の五大商社であるが、最近では、K紡績という商社が抬頭して、九〇万ヤールを握って、相場を殆んど握っている形であるといわれる。  
この相場のうつりかわりの中では、いつも綿糸よりも綿布の方が早く下落してゆくのだから、したがって商社や大紡績から糸を借りたり買ったりして、綿布を織る中小企業の機屋は、こういう暴落時にはとくに大きな打撃

